



クライアント

- AllowUserSelectChatsFileDirectory (3 ページ)
- AutoAcceptFileTransfer (3 ページ)
- AutoAcceptImage (4 ページ)
- AutoAnswerForGuidedAccess (4 ページ)
- AutosaveChatsLocation (4 ページ)
- CachePasswordMobile (5 ページ)
- CacheSessionCookieInDevice (5 ページ)
- Call_Center_Audio_Enhance_Mode (5 ページ)
- ChatAlert (5 ページ)
- ChatTelephonyEscalationLimit (6 ページ)
- ContactCardonHover (6 ページ)
- DefaultActionOfContactList (6 ページ)
- Disable_IM_History (7 ページ)
- DisableAllMeetingReminder (8 ページ)
- DisableAudioDucking (8 ページ)
- DisableCallHistoryResolution (8 ページ)
- DisableLocusCMR (8 ページ)
- DisableNonAcceptMeetingReminder (9 ページ)
- DisableRemoteDesktopControl (9 ページ)
- DisableStartOnlineForOfflineMeeting (9 ページ)
- DisplayScreenshotWhenSwitchApps (10 ページ)
- EMMType (10 ページ)
- EnableAutosave (10 ページ)
- EnableConvertNumberToURI (11 ページ)
- EnableFec (11 ページ)
- EnableFTE (12 ページ)
- EnableInlineImages (12 ページ)
- EnablePrt (12 ページ)
- EnablePrtEncryption (13 ページ)

- [EnableReminderForNoneWebExMeeting](#) (13 ページ)
- [EnableSaveLogsToLocal](#) (13 ページ)
- [EnableSingleNumberReach](#) (13 ページ)
- [EnableVDIFallback](#) (14 ページ)
- [ForceLogoutTimerDesktop](#) (14 ページ)
- [ForceLogoutTimerMobile](#) (14 ページ)
- [Forgot_Password_URL](#) (15 ページ)
- [GlobalPhoneServiceErrorOnMobile](#) (15 ページ)
- [HideCallControlStrip](#) (15 ページ)
- [IP_Mode](#) (16 ページ)
- [J2JMaxBandwidthKbps](#) (16 ページ)
- [jabber-plugin-config](#) (16 ページ)
- [JabberHelpLink](#) (17 ページ)
- [JawsSounds](#) (17 ページ)
- [MakeUsernameReadOnly](#) (17 ページ)
- [MaxNumberOfBookmarks](#) (18 ページ)
- [Mention_GroupChat](#) (18 ページ)
- [Mention_P2Pchat](#) (18 ページ)
- [Mention_PersistentChat](#) (18 ページ)
- [MyJabberFilesLocation](#) (19 ページ)
- [pChatMeeting](#) (19 ページ)
- [pChatShare](#) (19 ページ)
- [Persistent_Chat_Enabled](#) (20 ページ)
- [Persistent_Chat_Mobile_Enabled](#) (20 ページ)
- [PersistentChatTelephonyEnabled](#) (20 ページ)
- [PersistIMNotifications](#) (21 ページ)
- [PrtCertificateName](#) (21 ページ)
- [PRTCertificateUrl](#) (21 ページ)
- [PrtLogServerURL](#) (22 ページ)
- [ResetOnLogOutOnMobile](#) (22 ページ)
- [RestoreChatOnLogin](#) (22 ページ)
- [SaveLogToLocal](#) (23 ページ)
- [ScreenReaderShowErrors](#) (23 ページ)
- [ShowCallAlerts](#) (23 ページ)
- [ShowIconWhenMobile](#) (24 ページ)
- [ShowRecentsTab](#) (24 ページ)
- [SingleLinePhoneLabel](#) (25 ページ)
- [spell_check_enabled](#) (25 ページ)
- [spell_check_language](#) (25 ページ)
- [StartCallsWithVideoOverCellular](#) (26 ページ)
- [STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED](#) (26 ページ)

- [SwapDisplayNameOrder](#) (27 ページ)
- [SystemIdleDuringCalls](#) (27 ページ)
- [TelephonyOnlyDiscovery](#) (27 ページ)
- [UnreadMessageDeleteAlert](#) (28 ページ)
- [UpdateURL](#) (28 ページ)
- [LdapAnonymousBinding](#) (28 ページ)
- [UseSystemLanguage](#) (29 ページ)
- [UXModel](#) (30 ページ)

AllowUserSelectChatsFileDirectory

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザによる MyJabberChats フォルダと MyJabberFiles フォルダのディレクトリの変更が可能かどうかを決定します。

- **true** (デフォルト) : ユーザは、[オプション (Options)]ダイアログの[チャット (Chats)]タブにある[フォルダの変更 (Change Folder)]ボタンを使用して、MyJabberChats フォルダと MyJabberFiles フォルダを変更できます。
- **false** : ユーザによる MyJabberChats フォルダおよび MyJabberFiles フォルダのディレクトリの変更は許可されません。[フォルダの変更 (Change Folder)]ボタンは、[オプション (Options)]ダイアログの[チャット (Chats)]タブでは表示されません。MyJabberChats フォルダおよび MyJabberFiles フォルダのディレクトリは、AutosaveChatsLocation パラメータによって決定されます。

このパラメータが設定されていない場合、**true** として動作します。

例: `<AllowUserSelectChatsFileDirectory>true</AllowUserSelectChatsFileDirectory>`

AutoAcceptFileTransfer

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ファイル転送中にユーザがファイルを自動で受け取るかを指定します。このパラメータは、AutoAcceptImageパラメータを使用して設定できる画像には適用されません。

- **true**: ファイルは、IM で送信するときにダウンロードされるように自動的に受け入れられます。
- **false** (デフォルト): ファイルは自動的に受け入れられず、受信者はファイルの受信に手動で同意する必要があります。

例: `<AutoAcceptFileTransfer>true</AutoAcceptFileTransfer>`

AutoAcceptImage

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ユーザごとに自動で受信する .jpg、.jpeg、.gif、および .png 画像を設定します。デフォルトでオフになっている AutoAcceptFileTransfer パラメータは、画像ファイルには適用されないため、このパラメータには影響しません。

true (デフォルト): 画像はクライアントで自動的に受け入れられます。

false: 画像は自動的に受け入れられず、標準ファイル転送が使用されます。

AutoAnswerForGuidedAccess

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber に適用されます。

デバイス上でガイド付きアクセスがアクティブな場合に、クライアントで自動応答オプションを使用できるようにするかどうかを指定します。自動応答を使用すると、クライアントはボイスとビデオによる着信 Jabber Call に自動的に応答できます。

- true: ガイド付きアクセスがアクティブな場合、クライアントの設定で自動応答が可能になります。
- false (デフォルト): 自動応答は利用できません。

AutosaveChatsLocation

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが会話を終えたら、自動的にインスタントメッセージおよびファイル転送が保存されるパスを定義します。ローカルファイルシステム上の絶対パスを使用します。チャットは「MyJabberChats」というフォルダに保存され、ファイルは「MyJabberFiles」というフォルダに保存されます。

AllowUserSelectChatsFileDirectory パラメータが false として設定されると、このパラメータは MyJabberFilesLocation パラメータと連携して次のように機能します。

- AutosaveChatsLocation パラメータと MyJabberFilesLocation パラメータの両方に値が設定されている場合、MyJabberFilesLocation の値が優先されます。
- MyJabberFilesLocation パラメータに値が設定されていない場合は、AutosaveChatsLocation 値が MyJabberChats フォルダおよび MyJabberFiles フォルダのパスを決定します。
- AutosaveChatsLocation パラメータおよび MyJabberFilesLocation パラメータの両方に値が設定されていない場合は、すべてのチャットとファイルはデフォルトの場所（「ドキュメント」フォルダ）に保存されます。

例 : <AutosaveChatsLocation>Local_Path</AutosaveChatsLocation>

CachePasswordMobile

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントがパスワードをキャッシュに保存するかどうかを指定します。

- **true**(デフォルト): クライアントが、ユーザパスワードをキャッシュに保存するので、ユーザは、クライアントが起動した際自動で、サインインします。
- **false**: クライアントは、ユーザパスワードをキャッシュに保存できないので、ユーザは、クライアントが起動した際、毎回パスワードを入力しなければなりません。

例 : <CachePasswordMobile>>true</CachePasswordMobile>

CacheSessionCookieInDevice

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber に適用されます。

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber でiOS キーチェーンにクッキーをキャッシュするかどうかを指定します。アプリケーションがバックグラウンドで動作を停止した場合、iOS キーチェーンにキャッシュされた SSO クッキーにより、ユーザが Cisco Jabber に自動でサインインできるようにします。

- **true** (デフォルト) : クッキーは iOS キーチェーンにキャッシュされます。
- **false** : クッキーは iOS キーチェーンにキャッシュされません。

Call_Center_Audio_Enhance_Mode

連絡先の音声再生する方法を調整します。連絡先センターの通話フローにエージェントグリーディングまたはウィスパーアナウンスが含まれている場合は、このパラメータを使用します。

- **true**: メディアエンジンでコールセンターオーディオ拡張モードを有効にします (CPVE)
- **false** (デフォルト): メディアエンジンでコールセンターオーディオ拡張モードを無効にします (CPVE)

例: < Call_Center_Audio_Enhance_Mode > true </Call_Center_Audio_Enhance_Mode >

ChatAlert

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

チャットアラートのデフォルトのサウンドを指定します。ユーザは、[オプション (Options)] ウィンドウの [サウンドとアラート (Sounds and Alerts)] タブでこの値を変更できます。

例：<ChatAlert>IMAlert_1</ChatAlert>

ChatTelephonyEscalationLimit

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

グループチャットとパーシステントチャットでテレフォニー エスカレーションが有効になっている場合に許可される最大参加者数を定義します。

デフォルト値は 25 名です。参加者 0 を設定すると、パラメータが無効になります。ただし、参加者の上限はありません。

例：<ChatTelephonyEscalationLimit>10</ChatTelephonyEscalationLimit>

ContactCardonHover

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

[連絡先 (Contacts)] リスト内の連絡名および検索結果の連絡名にマウスカーソルを合わせたときに、連絡先カードを表示するかどうかを指定します。

- true (デフォルト): ハブウィンドウまたは、検索結果上にカーソルを合わせると連絡先カードが表示されます。Jabber for Windows では、連絡先の名前の上で CTRL + I キーを押すと連絡先カードが表示されます。
- false : 連絡先リストまたは検索結果にカーソルを合わせても連絡先カードは表示されません。

例：<ContactCardonHover>>false</ContactCardonHover>

DefaultActionOfContactList

モバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

Jabber ユーザが連絡先リストまたは、連絡先検索結果をタップしたときの動作を指定します。

- チャット (デフォルト) : クライアントは連絡先とのチャットセッションを開始します。
- 発信 : クライアントは連絡先との VoIP 通話を開始します。



(注) これらの値では大文字と小文字が区別されます。

DefaultActionOfContactList パラメータ向けに指定された設定は、電話専用またはIM専用アカウントのユーザには適用されません。フルサービスを導入しているユーザに [通話 (Call)] オプションが設定されている場合、電話サービスが使用できないときには、クライアントはモバイル通話を開始します。

例: <DefaultActionOfContactList>Call</DefaultActionOfContactList>

Disable_IM_History

11.8 バージョン以降のすべてのCisco Jabber クライアントに適用されます。

参加者がログアウトした後、クライアントがチャット履歴を保持するかどうかを指定します。参加者が Jabber をリセットするまで、クライアントはチャット履歴を保持します。

Disable_IM_History キーが false で、参加者がチャットウィンドウを再度開いた場合、クライアントには最後の 200 メッセージのみが表示されます。



(注) 永続型チャット ユーザの場合は、false (デフォルト値) を使用する必要があります。Disable_IM_History パラメータを無効にすると、永続型チャットルームの @mention 機能に影響します。



(注) このパラメータは IM 限定展開には使用できません。

- true — 参加者がログアウトした後、クライアントはチャット履歴を保持しません。

Disable_IM_History パラメーターが true の場合、次の設定よりも優先されます (クライアントは履歴を保存しません)。

- IM および Presence サーバーで、クライアントでのインスタントメッセージ履歴のログ記録の許可。
- Webex メッセンジャー組織管理者 > ポリシー エディター > ポリシー名 > ローカルアーカイブ オプション。
- false (デフォルト) — 参加者がログアウトした後、クライアントはチャット履歴を保持します。

チャット履歴を保持するには、IM および Presence サーバーのクライアントでのインスタントメッセージ履歴のログ記録の許可 オプションまたは、Webex Messenger の Webex メッセンジャー組織管理者 > ポリシー エディター > ポリシー名 > ローカルアーカイブ オプションを有効にする必要があります。

例: <Disable_IM_History>true</Disable_IM_History>

DisableAllMeetingReminder

Windows 版 Cisco Jabber と Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber ミーティングタブにある Webex Meetings に対するリマインダをユーザに通知するかを指定します。

- true : 通知しません。
- false (デフォルト) : 通知します。

DisableAudioDucking

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

Audio Ducking 機能を有効にするかどうかを指定します。

- true (デフォルト)—Audio Ducking が無効です
- false—Audio Ducking が有効です

例: `<DisableAudioDucking>true</DisableAudioDucking>`

DisableCallHistoryResolution

すべてのクライアントに適用されます。

Jabber を起動すると、Jabber は、連絡先ソースからの通話履歴にある各発信者を検索しようとします。外部電話番号からのコールのほとんどが連絡先センターにあるような展開では、これらの要求は外部の電話番号の不要なオーバーヘッドになります。大量の外部コールがある場合、これらの要求は LDAP または UDS サーバに大きな負荷をかける可能性があります。

必要に応じて、`DisableCallHistoryResolution` を使用して、サーバのロードを排除します。

- true: すべての電話番号解決要求をブロックします。
- false (デフォルト): 電話番号解決要求を有効にします。

例: `<DisableCallHistoryResolution> true </DisableCallHistoryResolution>`

DisableLocusCMR

すべてのクライアントに適用されます。

共通アイデンティティ (CI) が有効な場合、CMR ミーティング機能のミーティング制御を無効に指定します。

- **true** — ミーティングの制御を無効にします。
- **false** (デフォルト) — ミーティングの制御を有効にします。

例 : `<DisableLocusCMR>>false</DisableLocusCMR>`

DisableNonAcceptMeetingReminder

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

承認していない Webex Meetings について、Cisco Jabber ポップアップミーティングリマインダを表示するか指定します。

- **true** : 承認していない Webex Meetings については、Jabber ポップアップミーティングリマインダを表示しません。
- **false** (デフォルト) : 承認していない Webex Meetings でも Jabber ポップアップミーティングリマインダを表示します。

例 : `<DisableNonAcceptMeetingReminder>>false</DisableNonAcceptMeetingReminder>`

DisableRemoteDesktopControl

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

リモートデスクトップコントロールを IM 専用共有セッション内で有効にするかどうかを指定します。

- **true** — リモート デスクトップコントロールを無効にします。
- **false** (デフォルト): リモートデスクトップコントロールを有効にします。

`< DisableRemoteDesktopControl >true</ DisableRemoteDesktopControl >`

DisableStartOnlineForOfflineMeeting

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

非 Webex Meetings のミーティングタブで **オンライン開始** ボタンを表示するかを指定します。このパラメータは、Webex Meetings には影響しません。

- **true** (デフォルト) : 非 Webex Meetings のミーティングタブで **オンライン開始** ボタンを表示しません。
- **false** : 非 Webex Meetings のミーティングタブで **オンライン開始** ボタンを表示します。

例: `<DisableStartOnlineForOfflineMeeting>>false</DisableStartOnlineForOfflineMeeting>`

DisplayScreenshotWhenSwitchApps

Android 版 Jabber に適用

ユーザがホームボタンをスワイプしてアプリを切り替えるときに Jabber の一般的なスクリーンショットを表示するかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト): ユーザがホームボタンを上からスワイプすると、Jabber アプリケーションが表示されます。
- **false**: ユーザがホームボタンを上からスワイプすると、Jabber の一般的なスクリーンショットが表示されます。

例: `<DisplayScreenshotWhenSwitchApps> false </DisplayScreenshotWhenSwitchApps>`

EMMType

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

エンタープライズモビリティ管理 (EMM) を使用すると、EMMType がユーザがログインできないように Jabber モバイルクライアントをブロックすることができます。このパラメータを設定しない場合、Jabber はデフォルトであらゆる種類のクライアントの使用を許可します。このパラメータは、許可された Jabber クライアントのセミコロン区切りのリスト (1; 2) を受け入れません。

- **0** (デフォルト): 標準 Jabber モバイルクライアントを許可します
- **1**: Intune 版 Jabber を許可します
- **2**: Blackberry 版 Jabber を許可します

例: `< EMMType > 1; 2 </EMMType >`

EnableAutosave

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

前提条件:

- ユーザは Cisco Unified Communications Manager アカウントを保持している必要があります。
- また、Webex のローカルアーカイブを (組織管理 > ローカルアーカイブポリシー)、または IM および Presence サーバーの Cisco Unified Communications Manager (メッセージ > 設定 > クライアントでインスタントメッセージ履歴の記録を許可) を有効にする必要があります。

ユーザが会話を閉じるたびに自動的にインスタントメッセージが保存されるようにするかどうかを指定します。このファイルは、ユーザが Jabber からサインオフまたはリセットした場合でも維持されます。クライアントでオプションを次のように有効にします。

- Windows—ファイル > オプション > チャット > チャットセッションを自動保存:
- Mac—Jabber > 設定 > チャット > チャットアーカイブを保存:
- true : チェックボックスを使用できます。
- false (デフォルト) : チェックボックスを使用できません。

例 : `<EnableAutosave>true</EnableAutosave>`

次に、ユーザが Windows プラットフォーム上でドキュメント (デフォルト) を自動保存フォルダーとして選択した場合に保存される HTML ファイルの例を示します。

例 :

```
C:\Users\user  
id\Documents\MyJabberChats\userA@domain.com\Chats\userB@domain.com\2019-04-02\userB@domain.com\2019-04-02_10-55-15.html
```

EnableConvertNumberToURI

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザがチャットウィンドウで数字を入力した際に、Cisco Jabber がその番号を SIP URI に変換するかどうかを指定します。

- true (デフォルト): Cisco Jabber が、番号を SIP URI に変換します。
- false: Cisco Jabber は、SIP URI に番号を変換しません。

例 :

```
<EnableConvertNumberToURI>>false</EnableConvertNumberToURI>
```

EnableFecc

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

遠端カメラを制御する機能をクライアントで有効にするかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : 遠端カメラ制御が有効になります。コール ビデオ ウィンドウで [Far-End Camera Control (遠端カメラ制御)] ボタンが有効になります。
- false : 遠端カメラ制御が無効になります。エンドポイントで遠端カメラを制御できる場合でも、コール ビデオ ウィンドウでは [遠端カメラ制御 (Far-End Camera Control)] ボタンが無効になります。

例 : `<EnableFecc>>false</EnableFecc>`

EnableFTE

Windows Cisco Jabber クライアントに適用されます。

Jabber がリセットされた後、またはキャッシュをクリアした後に、ユーザに初回エクスペリエンスを表示するかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) — リセットまたはキャッシュのクリア後に初回エクスペリエンスのダイアログが有効になります。
- **false** — 初回エクスペリエンスのダイアログは、リセットまたはキャッシュのクリア後に無効になります。

例: `<EnableFTE>>false</EnableFTE>`

EnableInlineImages

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントが最初にダウンロードされることを許可または禁止するために、インラインイメージを設定します。

- **true** (デフォルト): 画像は Jabber で自動的に表示されます。
- **false**: ユーザが画像を閲覧しなければならない場合に、ファイル転送が使用されます。

例: `<EnableInlineImages>>false</EnableInlineImages>`

EnablePrt

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントの [ヘルプ (Help)] メニューで [問題の報告 (Report a problem)] メニュー項目を使用可能にするかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : [問題の報告 (Report a problem)] メニュー項目が使用可能になります。
- **false** : [問題の報告 (Report a problem)] メニュー項目が削除されます。

例: `<EnablePrt>True</EnablePrt>`

このパラメータを無効にしても、ユーザは [スタートメニュー (Start Menu)] > [Cisco Jabber] ディレクトリ、または Program Files ディレクトリを使用して、問題レポートツールを手動で起動できます。

ユーザが手動で PRT を作成し、このパラメータ値が **false** に設定されている場合、PRT から作成された zip ファイルにはコンテンツがありません。

EnablePrtEncryption

問題レポートの暗号化を有効にします。デスクトップクライアント向けの Cisco Jabber では、このパラメータは PRTCertificateName パラメータと共に設定します。モバイルクライアント向けの Cisco Jabber では、このパラメータは PRTCertificateUrl パラメータと共に設定します。

- true : Cisco Jabber クライアントから送信された PRT ファイルが暗号化されます。
- false (デフォルト) : Cisco Jabber クライアントから送信された PRT ファイルは暗号化されません。

PRT の暗号化には、Cisco Jabber 問題レポートの暗号化と復号化のための公開/秘密キーペアが必要です。詳細については、『*Features and Options for Cisco Jabber*』の「*Decrypt the Problem Report*」セクションを参照してください。

例 : <EnablePrtEncryption>true</EnablePrtEncryption>

EnableReminderForNoneWebExMeeting

版 Cisco Jabber デスクトップクライアントに適用されます。

ユーザが、Jabber ミーティングタブにある Microsoft Outlook、Google Calendar、Mac iCalendar、IBM Notes およびその他、非 Webex Meetings に対するリマインダを受け取るか指定します。

- true : リマインダを有効にします。
- false (デフォルト) : リマインダを無効にします。

EnableSaveLogsToLocal

* Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが自分の携帯電話から電子メールを送信すること組織が許可していない場合、PRT ログを取得する別の方法が必要です。ユーザが、EnableSaveLogsToLocal を使用してローカルにログを保存できるようにすることができます。使用できる値は次のとおりです。

- true (デフォルト): ユーザはローカルストレージに PRT ログを保存することができます。
- false: ユーザがローカルストレージに PRT ログを保存できないようにします。

例: <EnableSaveLogsToLocal>true</EnableSaveLogsToLocal>

EnableSingleNumberReach

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザが、単一番号リーチのオプションにアクセスできるかどうかを指定します。

ユーザは、単一番号リーチがCisco Unified Communications Manager で設定されており、EnableSingleNumberReach パラメータが有効の場合のみ、単一番号リーチにアクセスできます。

- true (デフォルト): 単一番号リーチがCisco Unified Communications Manager で設定されている場合、ユーザは、単一番号リーチにアクセスできます。
- false: ユーザは、単一番号リーチのオプションにアクセスできません。

例:

```
<EnableSingleNumberReach>true</EnableSingleNumberReach>
```

EnableVDIFallback

このパラメータは、VDI 版 Cisco Jabber Softphone (すべてのプラットフォーム) にのみ適用されます。

JVDI エージェントが JVDI クライアントと通信できない場合に、VDI フォールバックモードを有効にするかどうかを指定します。

- true
- false (デフォルト)

例:

```
<EnableVDIFallback>true</EnableVDIFallback>
```

ForceLogoutTimerDesktop

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが Cisco Jabber デスクトップクライアントから自動的にサインアウトする前に非アクティブになる時間を分単位で指定します。このパラメータが設定されていない場合、クライアントは自動的にサインアウトしません。

時間の値の範囲は、1 ~ 480 です。

例:

```
<ForceLogoutTimerDesktop>15</ForceLogoutTimerDesktop>
```

ForceLogoutTimerMobile

モバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが Cisco Jabber モバイル クライアントから自動的にサインアウトする前に非アクティブになる時間を分単位で指定します。このパラメータが設定されていない場合、クライアントは自動的にサインアウトしません。

時間の値の範囲は、1 ~ 480 です。

例 : <ForceLogoutTimerMobile>15</ForceLogoutTimerMobile>

Forgot_Password_URL

デスクトップ クライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

パスワードを忘れた場合に、パスワードをリセットまたは取得するための Web ページの URL を指定します。

ハイブリッドクラウドベース展開では、Cisco Webex 管理ツールを使用して、忘れたパスワードをリセットまたは取得するための Web ページにユーザを誘導します。

例 :

<Forgot_Password_URL>http://http_servername/Forgot_Password_URL</Forgot_Password_URL>

GlobalPhoneServiceErrorOnMobile

モバイル クライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

電話サービスが別のデバイスに登録されている場合に、クライアントでエラーメッセージが表示される場所を指定します。

- **true**: エラーメッセージはクライアントの先頭に表示されます。この位置は、常にユーザに表示されます。
- **false** (デフォルト) の場合、**通話** タブにエラーメッセージが表示されます。

例: <GlobalPhoneServiceErrorOnMobile> true </GlobalPhoneServiceErrorOnMobile>



(注) このパラメータは、リリース 12.8 (1) で開始できます。

HideCallControlStrip

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

コール ウィンドウにコール制御ストリップを表示するかどうかを指定します。

- **enable** : コールするときにコール制御ストリップを表示します。Cisco Jabber のコール ウィンドウの上部のバーに、ユーザがコール制御ストリップの表示と非表示を切り替えられる新しいオプションがあります。

- **disable** (デフォルト) : コールするときにコール制御ストリップを非表示にします。コール制御ストリップのないビデオ専用ウィンドウが表示されます。

例:

```
<HideCallControlStrip>enable</HideCallControlStrip>
```

IP_Mode

すべてのクライアントに適用されます。

Cisco Jabber クライアントのネットワーク IP プロトコルを指定します。

- **IPV4_Only** : Jabber は IPv4 接続のみ試行します。
- **IPV6_Only** : Jabber は IPv6 接続のみ試行します。
- **Dual_Stack** (デフォルト) : Jabber は IPv4 または IPv6 のいずれかと接続できます。

例:<IP_Mode>IPV4_Only</IP_Mode>

J2JMaxBandwidthKbps

クラウド展開でのすべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

Jabber 間コールに使用される最大帯域幅 (キロビット/秒単位) を指定します。コールのビデオ画質 (解像度) は、この帯域幅制限に適合するように下げられます。

Cisco Jabber は、起動時に Cisco Webex Messenger でダウンロードした jabber-config.xml ファイルから、この設定を適用します。

- 最小値: 128 kbps。これより低い値は自動的に 128 kbps まで増加します。
- 最大値は 4000 kbps です。これがデフォルト値です。4000 kbps を超える値は自動的に 4000 kbps まで削減されます。

jabber-plugin-config

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

HTML コンテンツを表示するカスタム埋め込みタブなどのプラグインの定義が含まれます。詳細については、『*Features and Options for Cisco Jabber*』の「*Custom Embedded Tab Definitions*」セクションを参照してください。

例:

```
<jabber-plugin-config>
<browser-plugin>
<page refresh="true" preload="true">
<tooltip>Cisco</tooltip>
```



```
<icon>http://www.cisco.com/web/fw/i/logo.gif</icon>  
<url>www.cisco.com</url>  
</page>  
</browser-plugin>  
</jabber-plugin-config>
```

JabberHelpLink

Windows 版 Jabber に適用されます。

ヘルプ > **Cisco Jabber** ヘルプオプションを表示するかどうかを制御します。

- true (デフォルト): ヘルプメニューには Jabber ヘルプセンターへのリンクが含まれています。
- false: ヘルプメニューには、Jabber ヘルプセンターへのリンクは含まれていません。

例: <JabberHelpLink> false </JabberHelpLink>

JawsSounds

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

連絡先の検索結果が返される際に、Windowsの通知音を鳴らすかどうかを決定します。

- true (デフォルト) : 連絡先の検索結果が返される際に、Windowsの通知音を鳴らします。
- false : 連絡先の検索結果が返される際に、Windowsの通知音を鳴らしません。

MakeUsernameReadOnly

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが初めてサインインに成功した後で、[サインイン (Sign In)] 画面の [ユーザ名 (Username)] フィールドを読み取り専用にします。

- true : ユーザが初めてサインインに成功した後で、[サインイン (Sign In)] 画面の [ユーザ名 (Username)] フィールドを読み取り専用にします。[ユーザ名 (Username)] フィールドを再び有効にする場合、または別のユーザに切り替える場合は、ユーザが [ファイル (File)] メニューから Cisco Jabber をリセットする必要があります。
- false (デフォルト) : ユーザが初めてサインインに成功した後で、[サインイン (Sign In)] 画面の [ユーザ名 (Username)] フィールドを編集可能な状態のままにします。

例: <MakeUsernameReadOnly>true</MakeUsernameReadOnly>

MaxNumberOfBookmarks

デスクトップクライアント版およびモバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

常設チャットルームで許可されるブックマークの最大数を指定します。最大ブックマーク数は 30 です。

- 30（デフォルト）：最大 30 のブックマークを設定します。

例: `<MaxNumberOfBookmarks>30</MaxNumberOfBookmarks>`

Mention_GroupChat

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

グループチャットで発言を有効化するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：グループチャットでの発言を有効にします。
- false：グループチャットでの発言を無効にします。

例: `<Mention_GroupChat>>false</Mention_GroupChat>`

Mention_P2Pchat

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

一対一のチャットで発言を有効にするかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：一対一のチャットでの発言を有効にします。
- false：一対一のチャットでの発言を無効にします。

例: `<Mention_P2Pchat>>false</Mention_P2Pchat>`

Mention_PersistentChat

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

パーシステントチャットで発言を有効化するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：パーシステントチャットでの発言を有効にします。
- false：パーシステントチャットでの発言を無効にします。

例: `<Mention_PersistentChat>>false</Mention_PersistentChat>`

MyJabberFilesLocation

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが会話を終わらしたら、自動的にインスタントメッセージおよびファイル転送が保存されるパスを定義します。チャットはMyJabberChatsというフォルダに、ファイルはMyJabberFilesというフォルダに保存されます。

ユーザは、このパラメータを**オプションダイアログのチャット** タブで設定します。ユーザが**フォルダの変更** ボタンをクリックすると、ブラウザのダイアログが開き、選択されたフォルダのファイルパスがMyJabberFilesLocationパラメータに書き込まれます。

このパラメータは、AllowUserSelectChatsFileDirectoryパラメータがfalseに設定されている場合にだけ設定できます。

このパラメータはAutosaveChatsLocationパラメータと連携して次のように機能します。

- AutosaveChatsLocationパラメータとMyJabberFilesLocationパラメータの両方に値が設定されている場合、MyJabberFilesLocationの値が優先されます。
- MyJabberFilesLocationパラメータに値が設定されていない場合は、AutosaveChatsLocation値がMyJabberChatsフォルダおよびMyJabberFilesフォルダのパスを決定します。
- AutosaveChatsLocationパラメータおよびMyJabberFilesLocationパラメータの両方に値が設定されていない場合は、すべてのチャットとファイルはデフォルトの場所（「ドキュメント」フォルダ）に保存されます。

pChatMeeting

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

[Meet Now (Meet Now)] オプションを常設チャットルームで有効にするかどうかを定義します。

- true (デフォルト): 常設チャットルームのユーザに対してWebex Meetings機能が有効になります。ユーザに対して[Meet Now (Meet Now)] オプションが表示されます。
- false: 常設チャットルームのユーザに対してWebex Meetings機能が無効になります。ユーザに対して[Meet Now (Meet Now)] オプションが表示されません。

例: <pChatMeeting>>false</pChatMeeting>

pChatShare

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

画面共有機能を常設チャットルームで有効にするかどうかを定義します。

- **true** (デフォルト) : 常設チャットルームで画面共有機能が有効になります。ユーザに対して [画面の共有 (Share screen)] オプションが表示されます。
- **false** : 常設チャットルームのユーザに対して画面共有機能が無効になります。ユーザに対して [画面の共有 (Share screen)] オプションが表示されません。

例 : `<pChatShare>>false</pChatShare>`

Persistent_Chat_Enabled

デスクトップ クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントでパーシステントチャット機能を使用できるようにするかどうかを指定します。

- **true** : クライアントにパーシステントチャット インターフェイスが表示されます。
- **false** (デフォルト) : 設定ファイル内に設定が存在しない場合は、パラメータがデフォルト値に設定されます。

例 : `<Persistent_Chat_Enabled>>true</Persistent_Chat_Enabled>`

Persistent_Chat_Mobile_Enabled

モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

クライアントでパーシステントチャット機能を使用できるようにするかどうかを指定します。

前提条件 :

この値は、Cisco Unified Communications Manager のインスタントメッセージングと Presence サーババージョンが 11.5 su5 以降である場合にのみ、**true** に設定できます。

- **true**: クライアントでパーシステントチャット機能を利用できます。これは、次のように設定できます。
- **False** (デフォルト): クライアントでパーシステントチャット機能を利用できません。

例: `<Persistent_Chat_Mobile_Enabled>>false</Persistent_Chat_Mobile_Enabled>`

PersistentChatTelephonyEnabled

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがパーシステントチャット会話に参加しているときに [コール (Call)] ボタンを使用可能にするかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : パーシステントチャットで [コール (Call)] ボタンが有効になり、ユーザはこのボタンをクリックして通話を開始できます。

- **false** : パーシステントチャットで[コール (Call)] ボタンが表示されないため、ユーザは会議を開始できません。

例 : `<PersistentChatTelephonyEnabled>>false</PersistentChatTelephonyEnabled>`

PersistIMNotifications

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

画面上で新しいメッセージが消去されるまで、そのメッセージの IM 通知が消えないようにします。新しい通知は、古い通知の前に表示されます。

- **true**: ユーザがメッセージを削除するまで、メッセージは画面上に表示されます。ユーザは、永続的な表示をオフにするオプションを選択できます。このオプションは、**通知のオプションメニュー**にあります。
- **false** (デフォルト): 削除されるまで、メッセージは画面に残りません。メッセージは表示され、通知がなくなり、タスクバー上に点滅している Jabber アイコンだけになるまで、メッセージがフェードアウトし始めます。

PrtCertificateName

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

[エンタープライズ信頼または信頼できるルート認証局の証明書ストア (Enterprise Trust or Trusted Root Certificate Authorities certificate store)]に公開キーと共に証明書の名前を指定します。証明書の公開キーは、Cisco Jabber 問題レポートの暗号化に使用されます。このパラメータは `EnablePrtEncryption` パラメータと共に設定する必要があります。

例 : `<PrtCertificateName>Certificate_Name</PrtCertificateName>`

PRTCertificateUrl

モバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

信頼できるルート証明書ストアの公開キーを使用して、証明書の URL を指定します。クライアントは公開キーをダウンロードし、Cisco Jabber 問題レポートの暗号化にその公開キーを使用します。`EnablePrtEncryption` が **true** であり、URL が誤っていたかまたはネットワークの問題が原因で証明書がダウンロードされていない場合、Cisco Jabber は PRT を送信しません。

例 : `<PRTCertificateUrl>http://server_name/path/Certificate_Name</PRTCertificateUrl>`

PrtLogServerURL

問題レポートを送信するためのカスタムスクリプトを指定します。詳細については、『*Features and Options for Cisco Jabber*』の「*Configure Problem Reporting*」セクションを参照してください。

例: <PrtLogServerURL>http://server_name:port/path/prt_script.php</PrtLogServerURL>

ResetOnLogoutOnMobile

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがサインアウトするときに、自動的にリセットを実行するかどうかを指定します。

- **true**: ユーザがサインアウトすると、クライアントは自動的にリセットされます。この値を設定すると、**サインアウトボタンが Jabber にリセットするように変更**されます。
- **false** (デフォルト) : サインアウトすることでクライアントは自動的に起動されません。

例: <ResetOnLogoutOnMobile> true </ResetOnLogoutOnMobile >



(注) このパラメータは、リリース 12.8 (1) で開始できます。

RestoreChatOnLogin

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

最初にサインインするときに、**オプション** ウィンドウの**全般**タブの**オープンな会話を記憶する** チェックボックスをチェックするかどうかを指定します。

- **true** : ユーザが最初に Cisco Jabber にサインインするとき、[オープンな会話を記録する (Remember my open conversations)] チェックボックスはチェックされています。ユーザがクライアントにサインインするたびに、Jabber は、サインアウトしたときに開いていたすべての個人間の会話を復元します。
- **false** (デフォルト): ユーザが最初に Cisco Jabber にサインインするとき、**オープンな会話を記録する** チェックボックスはチェックされていません。

ユーザは**オープンな会話を記録する** チェックボックスをチェックするかどうかにより、初期設定をいつでも上書きできます。



(注) チャット履歴が無効の場合は、復元されたチャット ウィンドウは空欄となります。

Jabber チーム メッセージング モード は常に、オープンチャットを記憶しています。全般タブには、Jabber チーム メッセージング モード の **オープンな会話を記録する** チェックボックスはありません。

例 : <RestoreChatOnLogin>false</RestoreChatOnLogin>

SaveLogToLocal

Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが問題レポートを自分のモバイルデバイスに直接保存できるかどうかを決定します。パラメータが *true* に設定されている場合、ユーザは、レポートを空の電子メールに添付するか、問題レポートをモバイルデバイスに直接保存するかの方法で問題レポートをエクスポートできます。パラメータが *false* に設定されている場合、ユーザは電子メールオプションのみが使用可能です。

- *true* (デフォルト): ユーザは、問題レポートを自分のモバイルデバイスに保存できます。
- *false*: ユーザは、自分のモバイルデバイスに問題レポートを保存することはできません。

<SaveLogToLocal>true</SaveLogToLocal>

ScreenReaderShowErrors

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

スクリーンリーダーが動作している場合、Jabber では、情報メッセージをポップアップウィンドウとして表示します。

- *true* (デフォルト): スクリーンリーダーが実行されている場合、クライアントに表示されるメッセージは、スクリーンリーダーがキャプチャするポップアップウィンドウとして代わりに表示されます。スクリーンリーダーが動作していない場合は、通常どおりに情報メッセージが表示されます。
- *false*: スクリーンリーダーが実行されている場合、メッセージはポップアップウィンドウに表示されません。

ShowCallAlerts

すべてのクライアントに適用されます。

着信コールアラート (toasts) を表示するかどうかを制御します。

- true (デフォルト): アラートが表示されます。
- false: アラートは表示されません。

例: `<ShowCallAlerts> false </ShowCallAlerts >`

ShowIconWhenMobile

モバイルクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがモバイルデバイスを使用して Jabber にサインインしたときにモバイルアイコンを表示するかどうかを指定します。モバイルアイコンは、ユーザーの Availability ステータスの横に表示されます。

他の場所の共有と同様に、モバイルステータスアイコンはデスクトップクライアントでのみ表示されます。ShowIconWhenMobile が有効になっていて、ユーザがデスクトップとモバイルの両方のクライアントにログインしている場合、デスクトップ上の場所だけが表示されます。

- On: モバイルアイコンが表示されます。また、**モバイルの場合にアイコンを表示**は、クライアントでは利用できません。
- Off: モバイルアイコンは表示されません。また、**モバイルの場合にアイコンを表示**は、クライアントでは利用できません。
- Default_on (デフォルト): モバイルのアイコンが表示されるのは、ユーザが、**モバイルの場合にアイコンを表示**のオプションをクライアントで有効にした場合のみです。ユーザがクライアントを起動すると、デフォルトで**モバイルの場合にアイコンを表示**オプションが有効になっています。
- Default_off: ユーザが、クライアントで**モバイルの場合にアイコンを表示**オプションを有効にしたときのみ、モバイルアイコンが表示されます。ユーザがクライアントを起動すると、デフォルトで**モバイルの場合にアイコンを表示**オプションは無効になります。
- 値が空欄または no の場合: モバイルアイコンが表示されます。

例:

`<ShowIconWhenMobile>Default_on</ShowIconWhenMobile>`

ShowRecentsTab

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Jabber ハブ ウィンドウの [履歴 (Recents)] タブにユーザ コール履歴を表示するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : [履歴 (Recents)] タブが表示されます。
- false : [履歴 (Recents)] タブは表示されません。

例 : <ShowRecentsTab>false</ShowRecentsTab>

SingleLinePhoneLabel

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用

複数行の操作では、ユーザは選択リスト内の設定済みの行を選択します。選択リストには、電話番号または各行のラベルが表示されます。

回線を1つだけ使用しているユーザの場合、その番号またはラベルがデフォルトで表示されるかどうかは、展開モードによって異なります。

- **電話専用モード**および**連絡先がある電話モード**: 単一回線の番号またはラベルがデフォルトで表示されます。
- **フル UC モード**: 単一回線の番号またはラベルはデフォルトで非表示となります。

新しいSingleLinePhoneLabelパラメータを使用して、単一回線の操作のデフォルトの動作を上書き可能です。使用できる値は次のとおりです。

- **true**: 単一回線の番号またはラベルが表示されます。
- **false**: 単一回線の番号またはラベルが非表示になります。

例: <SingleLinePhoneLabel>true</SingleLinePhoneLabel>

spell_check_enabled

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントでスペルチェックを有効化するかどうかを指定します。スペルチェックはオートコレクトをサポートしています。ユーザは候補のリストから正しい用語を選択したり、辞書に用語を追加したりできます。

- **true** : スペルチェックが有効になります。
- **false** (デフォルト) : スペルチェックが無効になります。

例 : <spell_check_enabled>true</spell_check_enabled>

spell_check_language

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

使用するデフォルト スペルチェック言語を指定します。クライアントは、設定されたデフォルトのスペルチェック言語を使用します。クライアントに使用させるデフォルト言語辞書を定義できます。

会話ウィンドウで、ユーザはチャット相手ごとに別々のデフォルト言語を選択できます。

例: <spell_check_language>1031</spell_check_language>はデフォルトスペルチェック言語としてドイツ語を定義します。

StartCallsWithVideoOverCellular

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

デフォルトでは、携帯電話ネットワーク上での Jabber の通話はビデオなしで開始されます。これは、StartCallsWithVideoOverCellularパラメータを使用して制御できます。使用できる値は次のとおりです。

- **true**: 携帯電話ネットワーク上での通話はこのデフォルト値は、「音声とビデオを使用」となります。
- **false** (デフォルト): 携帯電話ネットワーク上での通話はこのデフォルト値は、「音声のみ使用」となります。

例: <StartCallsWithVideoOverCellular>true</StartCallsWithVideoOverCellular>

STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントで高速サインインを有効にするかを指定します。

- **false** (デフォルト): クライアントで高速サインインが有効になります。
- **true**: クライアントで高速サインインが無効になります。

モバイルクライアントのみに適用される前提条件は次のとおりです。

- **STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED**パラメータは **CachePasswordMobile**パラメータに依存しています。高速サインインを有効にするには、**STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED** を **false** に、**CachePasswordMobile** を **true** にします。
 - 11.8以前のリリースで、**CachePasswordMobile**パラメータを設定した場合は、11.9のリリースで、**STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED** および **CachePasswordMobile** を設定し、高速サインインを有効にします。
 - 11.8以前のリリースで **CachePasswordMobile** パラメータを設定していない場合は、**STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED** のみを設定して高速サインインを有効にします。
- これらのパラメータは両方とも Enterprise Mobility Management (EMM)で設定できます。

例:

```
<STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED>>false</STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED>
```

SwapDisplayNameOrder

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

特定のロケールで、[表示名 (displayname)]ディレクトリフィールドが空または使用不可の場合に、ユーザの表示名と連絡先の表示名を「姓、名」の形式に変更できるかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : 中国語 (香港)、中国語 (中華人民共和国)、中国語 (台湾)、韓国語、日本語のロケールで、ユーザの表示名と連絡先の表示名が「姓、名」の形式になります。
- **false** : ユーザの表示名と連絡先の表示名が、「名、姓」の形式になります。

例 : `<SwapDisplayNameOrder>>false</SwapDisplayNameOrder>`

SystemIdleDuringCalls

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがアクティブではなく、Windows コンピュータでスクリーンセーバーまたはコンピュータ ロック機能が有効な場合に、Cisco Jabber でのコール中にスクリーンセーバーまたはコンピュータ ロック機能をアクティブ化するかどうかを指定します。

画面がすでにロックされている場合やスクリーンセーバーがすでに起動している場合、このパラメータは着信コールの動作を制御しません。

- **true** : コール中にスクリーンセーバーをアクティブ化できます。
- **false** (デフォルト) : コール中またはユーザが新しい着信コールのアラートを受信したときに、スクリーンセーバーをアクティブ化できません。コールが終了するか、新しい着信アラートが承認または拒否されると、スクリーンセーバーまたは画面ロックが再び有効になります。

例 : `<SystemIdleDuringCalls>>true</SystemIdleDuringCalls>`

TelephonyOnlyDiscovery

オンプレミスおよびクラウド展開モードのすべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

自分の環境がフル UC モードに設定されていても、一部の Cisco Jabber クライアントのユーザを通話専用サービスにアクセスするように制限できます。

- **true**: Cisco Jabber のユーザは、通話専用サービスにのみアクセスできます。

- **false** (デフォルト): Cisco Jabber ユーザは、環境内で設定されているすべてのサービスにアクセスできます。

例:

```
<TelephonyOnlyDiscovery>True</TelephonyOnlyDiscovery>
```

UnreadMessageDeleteAlert

iPhone および iPad 用 Cisco Jabber に適用されます。

IM プッシュ通知が有効な場合、ユーザは、サーバーからの未読メッセージが近日中に削除される通知を受信します。通知は、メッセージキューが大きすぎる場合、またはセッションの中断が長すぎる場合に表示されます。

これらのメッセージは、UnreadMessageDeleteAlertパラメータを使用して制御できます。使用できる値は次のとおりです。

- **true** (デフォルト): 通知が表示されます。
- **false**: 通知は表示されません。

パラメータはこれらの通知を抑制します。デフォルト値の**true**は、通知を示します。値を**false**に設定すると、これらの通知は表示されません。

例: `<UnreadMessageDeleteAlert>>false</UnreadMessageDeleteAlert>`



(注) iOS13 以降で Apple プッシュ通知サービスを使用している場合、このパラメータはサポートされません。

UpdateURL

デスクトップクライアント向け Cisco Jabber に適用されます。

HTTP サーバ上の自動更新 XML 定義ファイルへの URL を指定します。クライアントはこの URL を使用して、XML 更新 XML ファイルを取得します。詳細については、『*Features and Options for Cisco Jabber*』の「*Configure Automatic Updates*」セクションを参照してください。

例: `<UpdateURL>http://http_servername/UpdateURL_file</UpdateURL>`

LdapAnonymousBinding

オンプレミス展開向けのすべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

LDAPサーバとのバインドで、ユーザまたはサービスアカウントの代わりに匿名バインディングを使用するか指定します。

- **true** : LDAP サーバに接続するとき、Cisco Jabber はクレデンシヤルを使用しません。この場合、ユーザは [オプション (Options)] ウィンドウでディレクトリ サービスのクレデンシヤルを入力できません。
- **false** (デフォルト) : LDAP サーバに接続するとき、Cisco Jabber はクレデンシヤルを使用します。



(注) 設定が矛盾するので、LdapAnonymousBinding パラメータと次のパラメータを併用しないでください。

- LDAP_UseCredentialsFrom
- ConnectionUsername と ConnectionPassword

例: <LdapAnonymousBinding>true</LdapAnonymousBinding>

UseSystemLanguage

Windows 版 Cisco Jabber リリース 11.1(1) 以降に適用されます。

クライアントに使用する言語を指定します。言語は次のプロセスによって決定されます。

1. システムによってブートストラップファイルがチェックされます。ブートストラップファイルで (LANGUAGE パラメータを使用して) 言語が指定されている場合は、その指定されている言語が使用されます。
2. ブートストラップ ファイルで言語が指定されていない場合は、システムにより UseSystemLanguage パラメータがチェックされます。
 - **true** : 言語は、オペレーティング システムと同じ値に設定されます。
 - **false** (デフォルト) : クライアントはユーザが指定した地域言語を使用します。地域言語は、[コントロールパネル (Control Panel)] > [時計、言語、および地域 (Clock, Language, and Region)] > [地域と言語 (Region and Language)] > [日付、時刻または数値の形式の変更 (Change the date, time, or number format)] > [形式 (Formats)] タブ > [形式 (Format)] ドロップダウンで設定されています。

例: <UseSystemLanguage>true</UseSystemLanguage>

言語がブートストラップ ファイルで指定されておらず、UseSystemLanguage パラメータが jabber-config.xml ファイルに含まれていない場合は、地域言語が使用されます。



(注) TFTP サーバの jabber-config.xml ファイルでこのパラメータが指定されている場合は、クライアントの再起動後 ([ファイル (File)] > [終了 (Exit)]) にのみこのパラメータが有効になります。

UXModel

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用

Jabber デフォルトでは、すべての導入で最新の設計になっています。ただし、オンプレミスおよび Webex Messenger の展開では、従来の設計がサポートされています。Jabber チームメッセージングモードでは、最新の設計のみがサポートされています。

従来の設計で、オンプレミスまたは Webex Messenger を開始する場合は、UXModel パラメータを使用します。使用できる値は次のとおりです。

- modern (デフォルト): Jabber は最新のデザインで開始されます。
- クラシック: Jabber は従来のデザインで開始されます。

各ユーザは Jabber で個人設定をすることができ、これはこのパラメータよりも優先されます。

例: <UXModel>modern</UXModel>